

2-35-1 金閣寺

鹿苑寺は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録された。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、特に優れて普遍的価値を持っていることを国際的に認められたことになる。

鹿苑寺は、鎌倉時代に造られた貴族の別荘を、足利義満が応永4年（1397）に譲り受けて粹を尽くした別邸北山殿に造り替え、さらに義満の死後応永29年（1422）に、夢窓疎石を開山とする禅寺とされたことに始まる。その後衰微したが、江戸時代に金閣及び庭園の修理がなされた。

庭園は、衣笠山を借景に、既存の池にさまざまな名石を据え、池に向かって3層の豪華な舍利殿金閣を建て、山上に展望所を建てている。金閣は、屋根をこけら葺とし、第2・3層全面に金箔を押すという、北山文化の象徴となる華麗な建築で、義満の権威と王朝への憧れが示されている。なお、金閣は昭和25年（1950）に火災により焼失したが、昭和30年（1955）に復原的に再建された。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録
京都市

説明板より